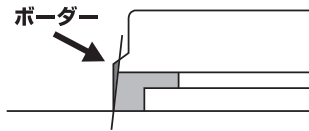


サイドエッジビベリング (ターンのコントロール性を高めるために)

●サイドエッジに角度をつけると、エッジグリップが増し、シャープな回転が得られます。角度はスキーヤーの体格、足の骨格、技術、コースの雪質、条件、競技種目などによって異なりますが、大きな角度をつけるとエッジグリップがアップする一方、スキー操作は難しくなります。テストを繰り返して最適な角度を見つけて下さい。また、サイドエッジはどんな雪質においても立ち気味にしておくほうがあとで調整がしやすくなります。



① ボーダー加工をする場合、サイドウォールプランナーを使用します。



② サイドウォールプランナーでボーダーを削り取ります。※深く削り過ぎないように徐々に削っていきます。ボーダー (エッジの上の出っ張り) を削ります。



③ スチールエッジワールドカップを使用し、目的に合わせたプレートを使用します。



① クロスファイルで粗削りします。  
※ファイリングの際はガイド部分を滑走面におしあてて、ずれないようにして下さい。



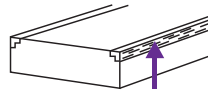
② レーシングファイルを取り付けて仕上げます。ファイルを使用する際、力を入れすぎてエッジで手を切らないようにご注意ください。



③ サイドエッジ全体を水砥石アルカンサスで最終仕上げをします。アルカンサスはそのままか、あるいは水をつけて使用してください。オイルは使用しないこと。アルカンサス本体の汚れは支障ありません。



③ 雪質に応じてダイヤモンドファイルで仕上げます。



エッジをシャープにしたのにエッジが効かない場合は、図のような状態になっていないかどうか確認して下さい。  
※この場合のほとんどは、サイドエッジの面取りがしっかりされていないのです。

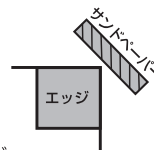
参考例

種目	サイドエッジ角度
DH・SG	87°～ 88°
GS	87°～ 88°
SL	85°～ 88°

●アイスパーンの特別仕上げ (人工雪のハードピステの場合)

自然雪のハードピステ用の仕上げでは、エッジが食いつかない場合があります。センター部分のサイドエッジを<ダイヤモンドファイル#600>で中仕上げ、<#800>で最終仕上げします。

※サイドエッジに微細な傷をつけることにより、エッジグリップ力が高まります。



④ トップやテールのエッジが鋭く立ちすぎている場合、雪質によってはスキーが雪面に引っかかって思うようにターンできないこともあります。サンドペーパー#320か#400あるいは<サンディンググラバー>で内側から外側に向かって軽くダリングして下さい。  
※丸めすぎないようにして下さい。